

はたらき人

沖繩信徒聖書学校
沖繩聖書神学校

沖繩県那覇市久米町
2の11 (〒900)
事務局
聖書学校
(電) 09893 (7) 8988
神学校
(電) 0988 (86) 2020

パウロは、第一コリント十章三節で、「こういうわけで、あなたがたは、食べるにも、飲むにも何をすることも、神の栄光を現わすためにしないさい。」と述べ、ピリピ一章十一節でも、「キリスト・イエスによって与えられる義の栄に満たされたい者となり、神の御栄えと誉れが現わされますように。」と記しています。

これらの聖句によって、「神の栄光のために」という原理は、キリスト者の生活原理であり、祈りなければならぬことが教えられます。パウロはこの原理を、「飲むにも、食べるにも」という言葉をさしはさむことによって、「一般化し、日常化」します。どんなささいな事柄でも、わたしたちの全生活において、神の栄光に関係のない事柄はありません。「神の栄光を現わす」ことは、何も大きな事業や業績においてのみならず、日常生活のただ中でなされるのです。



神の栄光のために

沖繩信徒聖書学校々々長

當 銘 由 正

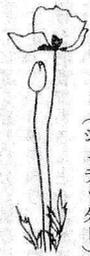
パウロの精神は、偉大な神中心主義、すなわち、神が中心にあり、神がすべてに先立ち、完全に、あらゆるものの上にあるという、あの神中心主義にあります。パウロにとって自分の救いすらも、本質的な唯一の問題ではなく（ロマ九章一―三）、ただ「神への奉仕」、「神への服従」、「神への忠実」以外にはなく、そして、「すべては神の栄光のため」でした。

沖繩信徒聖書学校で学ぶ一人ひとりに、キリスト者の生活原理、行動原理である「すべて神の栄光のために」を究極目標として、主によって備えられた道を、一筋に歩んでほしいと思います。

神の偉大さと栄光が私たちに

において現わされること、これが常に私たちの目標であり、関心事であるべきなのである。

(シュラッター)



二期生 仲尾次 恵美子

「こんな機会は何もないから一緒にしよう」とT姉に誘われた時、場所が遠いので、勉強したいと思っていなかったので断りましたが、話し合ううちに、機会を大切にしようと思ひ、行くことに決めました。出だしからあまり積極的ではなかった私が二年間の学校生活を終了する事ができた背後にはT姉の励ましや、帰りに送って下さった先輩のK兄やI兄の助け、祈って下さった先生方や、講義の中で一番印象に残っているのは『自分の教会を大事にし、愛しなさい』と、先生方が口をそろえて言われた事でした。どこの教会にでも問題はあるのだという事。それだからこそ牧師の為に祈り、みんなが心を合わせるべきだという事を教えられました。信徒学校を卒業した時を今、先生方があの時言われた意味がわかって来たような気がしています。ギリシャ語にふうふうしたり、レポートが

(二頁につづく)

私と信徒学校

外実習が実り多きものとなることを願っています。(台湾での実習には、ヘブル語教授の喜友名朝英師が同行する予定です。)

現在、OLBSとOBBSへの協力教会は、十七ですが新しく名護バプテスト教会が、協力教会として今総会で加入し、十八教会の協力が得られました。

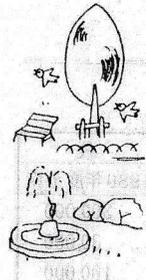
名護教会牧師の桃原師は、OLBSの卒業生ですが、このような先生の教会が協力して下さることは、OLBSにとって大きな喜びです。どうぞ引続いて、聖書学校、神学校のためお祈り下さい。

一九七九年度

沖繩信徒聖書学校卒業生

第五回卒業式が三月二五日に挙行され、次の五名の兄弟がめでたく卒業されました。今後の御活躍を祈ります。

玉栄良江(城間ナザレン) 知念重雄(那覇ナザレン)、宮平芳江(首里福音)、我謝孟諄(那覇バプテスト)、稲福美江子(同盟中央)



一九八〇年度学年暦

(聖書学校・神学校)

- 4月8日 聖書学校入学式
 - 4月17日 神学校前学期講義開始
 - 6月27日 聖書学校一学期終了
 - 7月―8月 聖書学校・神学校夏休み(神学校夏季実習)
 - 9月2日 聖書学校二学期開始
 - 10月13日 神学校前学期終了
 - 10月15日 神学校後学期開始
 - 11月28日 聖書学校二学期終了
 - 12月2日 クリスマス感謝会
 - 12月1日―1月5日 聖書学校・神学校冬休み
 - 1月6日 聖書学校三学期開始
 - 3月20日 聖書学校三学期終了
 - 3月24日 聖書学校第六回卒業式
 - 3月31日 神学校後学期終了
- (三段より)
- 践となり、これからの聖書研究における分解、展開、神が語りかける事への黙想に導かれるでしょう。
- II コリント9章15節
(天久神の教会会員)

沖繩聖書神学校に学んで

恵みによって本年四月から伝道学の聴講が許されたことを感謝しつつ、次の三つの事を分ちたいと思います。

(一)あらゆる角度(歴史・民族・統計等々)からまとめられたテキストを貫いている「十字架のキリスト」宣教、パウロが最も大切な事として伝えたIコリント15章3・4節のみことばを更に深く学びました。

(二)ホームワークとして与えられたA・Bブルース著「十二使徒の訓練」の学びは幸いで、特に「自己犠牲について」次のように記されていた事です。万物の相続人でありながら、なお霊的自由を少しも損なわれずに生きる生き方である。人生を楽しむながら、一旦緩急の際は人生の最上の楽しみをも犠牲にできる生き方である。これこそ真のキリスト者の徳性であり、完全を求めている人々にとって高次のキリスト者生活である。

(三)広範囲にわたる資料のレポート作成の中で得させて頂いた素早い全体的見渡しとポイントの掌握は、先に信徒聖書学校で学んだ事の実に

神学校通信

神学校が開校して、早いもので三年目を迎えました。聖書学校よりの献金によってスタートしてしまいましたが、なんとか守られていますが現在、三、四の教会からの献金協力が、今後の働きのために三倍以上の協力教会が与えられるよう祈り求めなければなりません。どうか覚えて祈って下さい。

また神学校が、地域の教会と協力し主の御業の前進のため、各授業について聴講制度をとっていますのでぜひ御利用下さい。

(二学期間の聴講料・五千円です)

編集後記

夏のキャンプシーズンを迎えてどの教会も伝道に力をそいでおられることかと思ひます。地味な働きですが多くの教会と各科目担当教授の献身の奉仕によって、聖書学校、神学校の歩みも前半を恵みのうちに終えることが出来ましたことを感謝しております。

二つの学校のことについて出来るだけ多くのクリスチャンの方に知っていただいで、主の御言葉の学びのため利用していただきたいと願っています。

第 7 回 定 期 総 会 報 告

1979年度決算と1980年度予算

収 入	聖 書 学 校		収 入	神 学 校	
	1979年度決算	1980年度予算		1979年度決算	1980年度予算
協力教会献金	638,000	640,000	協力教会献金	216,000	300,000
授業料	288,000	300,000	授業料	30,000	30,000
席上献金	88,559	100,000	有志献金	0	100,000
入学料金	80,000	70,000	雑収入	63,619	10,000
入試料	13,000	14,000	前年度繰越	485,061	413,080
雑収	63,620	4,746			
特別献金	16,000	90,000			
前年度繰越	247,987	356,254			
合 計	1,435,166	1,575,000	合 計	794,680	853,080
支 出			支 出		
会議費	21,750	25,000	会議費	1,600	30,000
事務局	126,820	130,000	事務局	60,000	60,000
教授交通費	432,000	432,000	教授交通費	320,000	360,000
広報費	30,000	40,000	光熱費	0	10,000
光熱費	62,301	100,000	図書費	0	100,000
家賃	330,000	480,000	行書費	0	1,000
図書費	40,000	100,000	消耗品	0	10,000
備品費	0	20,000	集講費	0	10
行事費	30,211	30,000	予備費	0	282,070
消耗品	5,830	10,000			
予備費	0	208,000			
合 計	1,435,166	1,575,000	合 計	794,680	853,080

第七回総会を終って

一九八〇年度総会も皆様の祈りと御協力のうちに無事終えられたことを、深く感謝しております。

第一部礼拝では、那覇ナザレン教会の斉藤師が「クリスチャンの真の成長」と題してメッセージされ、続いて第二部総会に臨みまじれた。年度報告として、聖書学校図書充実の協力願いに對し、ナザレン宣教団より十七冊の献本の報告がありました。また財務面は、報告されていますように、七十九年度決算は主の恵みのうちに満されていますが、新年度予算の中でO.L.B.S.は、卒業生へ特別献金十萬円の協力を、お願いすることになりました。どうか卒業生の兄姉の方覚えてお祈り下さい。

それから神学校の夏季実習の報告がされましたが、今夏、神学生を韓国、台湾の教会で約一ヶ月、海外実習させることが決定しているとの説明がありました。

神学生を海外で実習させる学校は国内にはほとんどありませんが海外宣教に重荷を持つべく創立された神学校として、今夏よりの海

(四頁につづく)

新入生のあかし

嘉数 等

間に合わなくて先生のお宅まで届けたりしたこともありました。学びに際してはあまり熱心でなかった事を申し分けなく思っておりますが、あの二年間は私にとっては貴重な時でした。あたたかい先生方とお知り合いになれただけでも大きな収穫でした。信徒学校を卒業しても、教会で私のやっている事は変わりませんが、教会に対する見方が変わったような気がします。(宇地泊キリストの教会々員)

私はブラジルで生まれました。日本語を知らない私が八年前に両親の故郷である沖縄に来た時、生活環境の違いもあって私はブラジルに帰りたいという気もちと帰れない事情の中で複雑な思いでした。どうしても、たとえ一人でもブラジルに戻りたいと決心しその複雑な思いは、多くのけんかと口論の種となりました。時が過ぎていく中で、私の心の中の悲しさと孤独とはなくなるこがなく、その様な時にブラジル帰りの友達ができました。私は彼らと共に過す様になり、一緒にいたいと思うようになりました。私の生活が変わり

りました。夜中はダンスクラブへ行ったり、町をぶらついたたり、煙草をすったり、酒に酔ったりの日でした。けれども、心の中に自分責める何かがあり、私は不満足でした。何に對してかはわかりませんが、とにかく不安でした。この様なある日、二人の友達が聖書を持って家に来ました。その時の事は思い出すことはできませんが、それ以来私の家で毎週聖書研究会をもつことになりました。

この集いに私は時々出席し、一つのある言葉が頭に残りました。それは「イエス・キリストは、罪人の為に死んだ。」という事です。私が以前知っていたイエス・キリストは、正しく、良い行いをやっていた方、そして悪人の手によって十字架で死んだ方である。たゞそれだけで尊敬はしていましたが、自分とのか、わりはありませんでした。

十字架のもっている本当の意味である誰の為に死なれたか、ということを知りませんでしたから、自分で考えていたキリストと違ふこの言葉が心に残りました。あの頃の私の生き方は、盲目的喜びがなく、友達や家族、職場の人達との交わりも無意味だと思えました。ですから、この言葉を聞いた時、



楽しいコーヒータイム

自分の心に罪を感じ自分が滅びに向って走っている事を知り、誰かの助けが必要であることを認めました。初めてイエス様の十字架が私に關係あるものとして考えられ苦しくなって主に叫び求めました。「私を救して下さい。私を助けて下さい」と。

その時、イエス様が私の為に血潮を流されている姿が浮び、私は救はじめて会ったにもかゝらず、今までもっと親しくしていた者の様に接してくれた事は、今でも印象ぶかいものです。実際にイエス・キリストは、生きていらっしやいます。私の心に生きて働いてくれました。その時から今まで、私に御言葉の通り多くの恵みを与えて下さったことを感謝しています。

一九八〇年度新入生

去る四月八日、次の六名の兄弟が沖縄信徒聖書学校に入学されました。二ヶ年の学びのために祈りと励ましをお願い致します。

- 石川政廣(首里福音)
- 大城智子(糸満キリスト福音)
- 嘉数 等(ブラジル福音)
- 金城ナオミ(希望丘)
- 城村英機(名護聖書)
- 藤村村代(首里福音)